

# 増毛山道

近世の貴重な土木産業遺産

## 歴史の道 増毛山道

安政4年(1857)江戸幕府函館奉行所の命を受けて、場所請負人であった伊達林右衛門が自費で開鑿した道です。北方の脅威から蝦夷地を防御する為、幕府は蝦夷地の断崖絶壁各地に道路を作りました。増毛山道は往時の姿のまま現代に遺された貴重な産業遺産です。

現在山道は一般開放していません。平成28年に再生した留萌振興局管内別荘から石狩振興局管内幌までの約27kmと、この本線上の岩尾分岐と岩尾を結ぶ約5kmにおいて、増毛山道の会と石狩市体育協会(こがね山岳会)の同行により「体験トレッキング」を夏期から秋期にかけて開催しています。詳細については増毛山道の会にお問い合わせください。(連絡先は裏面にあります。)



1等水準点No8468ガイド風景



第5回(H28)増毛中学1年生体験学習

### 山道に今も残る電信柱など



電信柱(深雪のための補強)

増毛山道の脇には今でも木製の柱が残っているのを見ることが出来ますが、これは明治22年に設置された電信線の電柱です。(注:電信線は電報などをやりとりするためのもので、電話線とは違います。)当時、山道が機能していたとはいえ冬の間は海が荒れて船の往来も滞り雄冬や浜益地域は陸の孤島になってしまっていました。そのため、電信線の開通は住民が強く望むところだったのです。札幌から石狩・厚田・浜益を経て雄冬へと至る電信線の敷設が着工したのは明治21年の9月。その年の9月には札幌・石狩間が開通しました。その後の増毛までの87.26kmの線は山道に沿って設置が進められましたが、海拔1km以上という山の中に電柱を立てるのは非常に困難を極めました。

最終的には明治22年の7月に完成し、その年の9月には増毛でも電信や電報が使用できるようになるのですが、12月にはすぐに不通となってしまいました。雪が解けるのを待って修理に出かけてみると、雪崩のために電柱は跡形もなく谷底へ押し流されていたのです。札幌からの接続を空知経由で迂回する線の新設も検討されましたが、経費が莫大になるため断念。とりあえず冬の間は雪に埋めてしまおうと線路を地上1mまで下げてみましたが、これも効

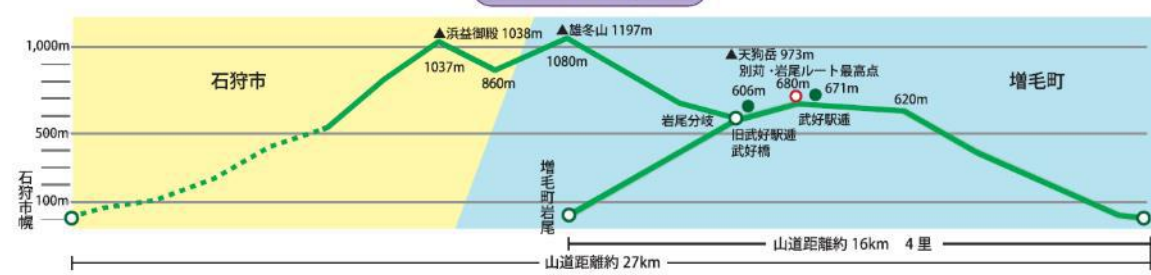
異なく23年の12月には再び不通となってしまいました。結局、札幌から樺戸新道という雨電方面を通過する道路を経由しての迂回路で電信柱を新たにひくことになり、明治24年に着工。翌年1月から開通し、一年を通じて確実な通信が可能になったのですが、問題もありました。増毛から浜益へ通信するにもわざわざ札幌を中継しなければならず、時間がかかると不満が出たのです。結局、再び従来の増毛山道沿いの線にスポットが当たり、これを改修して使用することになりました。浜益御殿の山頂付近などは建柱の間隔を狭め、線には太めの鋼線を用い、椀木も特製の頑丈なものに変えました。こうして村余曲折を経て札幌から石狩・浜益・雄冬を経由する電信線が完成し、毎年の補修を行いながら運用するようになったのです。

その後、浜益・雄冬間などには海岸沿いに新道ができて、電信線もそちらに移設されて被害は少なくなったと言います。



朽ちた電信柱 雪害柱製の罫子

### 増毛山道高低図



岩尾温泉上の集落最上部に標識(11)があります。



山道入口 岩尾



135から望んだ雄冬山

雄冬岬



天狗岳と右側に日本海海岸線を望む



郡別岳とその連峰を望む



再生山道風景

再生公開ルート  
非公開ルート

景観ポイント

水準点 標高番号(標高)

林道

縮尺=1/50,000

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平24地復 第412号)



舗装道の奥に標識(81)があります。



山道入口 別荘



明治32年別荘起点庚申塚



山道に疲れた旅人を迎える増毛の集落

### 一等水準点

8462 (標高 1037.8860m) 8467 (標高 606.7059m)



北海道で一番高い水準点と現在発見された水準点

北海道で一番高い水準点と現在発見された水準点  
北海道で一番高い水準点は約2400点ありますが、その中で最も高い位置にあるのが石狩管内の浜益御殿(1038m)頂上付近にあるNo8462です。平成7年に発見されましたが、当時は増毛山道は復元されておらず、増毛～浜益間の道路はこの増毛山道以外に無く、明治40年頃、17点の一等水準点が設置されましたが、山道近辺の開発が地形上遅れたこともあり、水準点そのものも忘れられていきました。この度約160年を経て復元された山道に9点の水準点を発見することができました。往時、三河産花崗岩標石を北海道まで運び、1本139kgを人力で山中まで荷揚げして埋設し、最高精度の観測を成し遂げた汗と人知の歴史遺産を体験下さい。

### ルート案内標識



別荘から岩尾間に写真のような標識を設置。全長16kmを1～100の順に区分けし、地図上で、現在の位置が判ります。



※標識Bは別荘起点・標識Iは岩尾起点



標識台